

令和4年度 舢倉島夏期総合診療実施報告書

令和4年8月5日
舢倉診療所長 二又 健太

令和4年度の舢倉島夏期総合診療は石川県の共催により令和4年7月30日(土)、31日(日)の両日にわたり実施されました。関係者の方々のご尽力により予定通りの日程で無事に終了しました。お力添えをいただいた関係者の皆様に深く感謝するとともに、ここに本年度の実施状況を報告致します。

1. 趣旨

専門医療の機会に恵まれない離島の住民に対して「耳鼻咽喉科、整形外科、内科」診療を実施し、舢倉島住民の保健医療の向上を図る。

2. 日程

令和4年7月30日(土) 午後0時～午後5時

7月31日(日) 午前9時～午前11時

3. 診療科目、場所

石川県輪島市海士町所属舢倉島出邑山1-4 舢倉島総合開発センター

耳鼻咽喉科：コンピュータ室

内科：診察室

整形外科：レントゲン室

受付：玄関ロビー

4. 診療従事者

耳鼻咽喉科	小森 貴	医師 (小森耳鼻咽喉科医院)
	山岸 亮	看護師 (市立輪島病院)
整形外科	高川 真伍	医師 (県立中央病院)
	森 愛美	看護師 (県立中央病院)
内科	堀田 祐紀	医師 (心臓血管センター金沢循環器病院)
	西川 諒	医師 (町立富来病院)
	竹森 彩香	看護師 (県立中央病院)
レントゲン撮影	古谷 治人	放射線技師 (市立輪島病院)
受付	河原 圭吾	課長補佐 (県庁地域医療推進室)
	内藤 雅志	専門員 (県庁地域医療推進室)
	西田 圭吾	主事 (県庁地域医療推進室)
運営	二又 健太	医師 (舢倉診療所)

5. 受診状況と問題点・今後の改善案

令和4年度は、のべ人数 62 名、実人数 30 名の方が受診された。各科の受診者数を下記に示す。

	内科	耳鼻科	眼科	整形外科	特定健診	大腸癌 検診	前立腺癌 検診	のべ人数
令和4年度	28	13	なし	21	25	なし	なし	87
令和3年度	27	15	なし	なし	17	なし	なし	59
令和2年度	開催なし							
令和元年度	49	20	なし	10	30	21	15	145
生成30年度	50	24	中止	中止	30	24	19	147
平成29年度	49	13	14	なし	33	26	19	154

※特定健診は6月1日～7月29日で本事業とは別に行った。

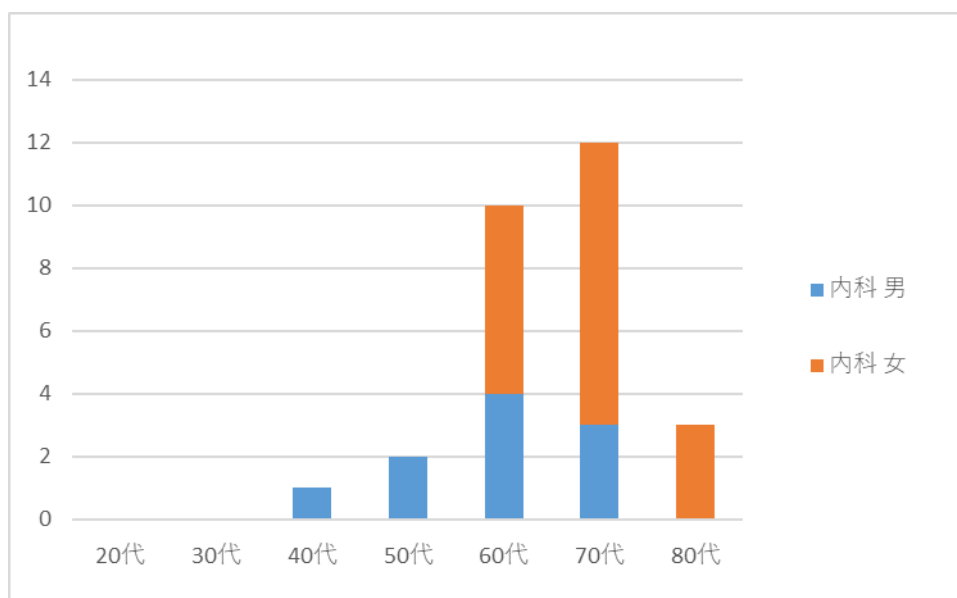
全体の傾向としては昨年に比べてのべ受診人数は大きく増加、実人数は減少した（実人数：令和3年度 31 名⇒令和4年度 30 名）。家族の看取りによる離島のため、受診予定だったが当日参加できなかった島民が一部いたため、事前の予定人数よりは下回ったと考えられる。診療科別では内科と整形外科で増加し、耳鼻科で減少した。

のべ受診人数の増加は整形外科が復活したためである。普段から肩や腰、膝の症状を訴える島民は多く、受診者が多い診療科は来年以降も継続が望ましいと言える。

特定健診希望者に関しては、当日のスタッフが令和元年度までよりも減少していることから、所長が本健診当日までに行った。参加スタッフを増加できれば、特定健診も当日に実施でき、事前の所長の負担も減らせるだろう。

以下で各科の受診状況について考察する。また、各科の受診状況をグラフにまとめたので参考にされたい。

<内科>

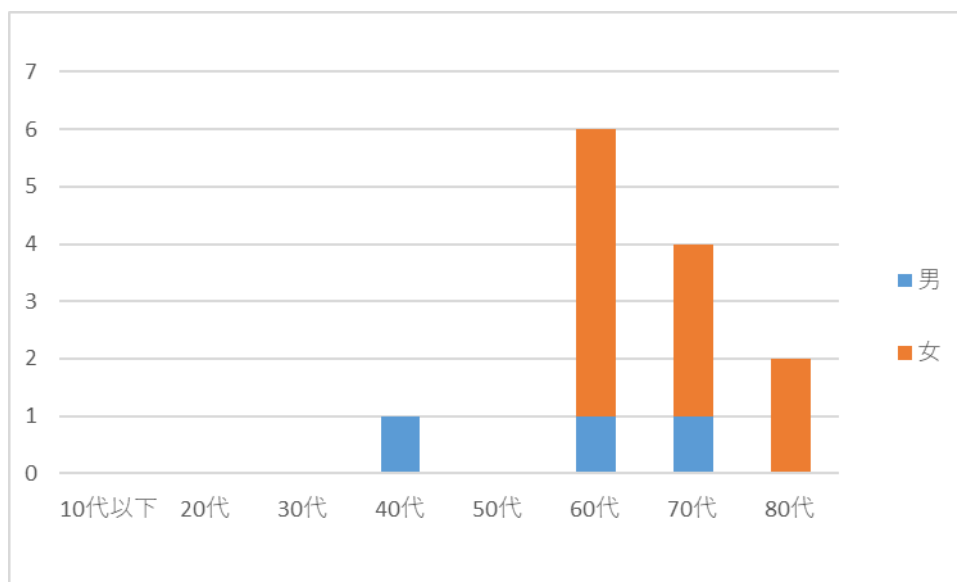


内科は前年度同様 50 歳代以上の年代で高い受診率を示している。今年度は前年度より 1 名の増加となった。島民は喫煙や飲酒などの生活習慣の乱れが目立ち、若い年代から健診を受ける意義は大きいと考えられる。実際、以前の内科検診で 30 歳代でも異常を認めた方もいることから、今後若い年代も積極的に健

診受診を勧めていくべきと考える。

一方、島民の高齢化が進んでおり、心疾患の罹患率は増加している。年一回の貴重な機会なので、既往歴や日常診療での会話の中で、少しでも内科健診を受ける意義があると思われる方には積極的に健診での内科受診をすすめた。当日は代々所長によって受け継がれる島民サマリーを別紙にて準備し、現在のプログラムについてすぐに把握できるよう工夫した。また、心疾患のみならず、高齢者でしばしばみられる食思不振や体重減少などのプログラムに対するアドバイスやしかるべき医療機関への紹介も取り次いでいただいた。普段専門的な検査を受ける機会の少ない島民にとっては年一回の内科健診によって、心疾患が初期の段階で発見されることも多く、今年度も精査が必要な方が認められ、とても有意義な健診であったと考えられる。当診療所では、任期が半年であり島民の経過を一人の医師で追うことが出来ないが、島民一人一人のサマリーを代々の医師が書き足しながら作成しており、今後もサマリーの日々の更新を続けることで、患者情報の正確な引き継ぎとフォローアップを行っていかねばならない。

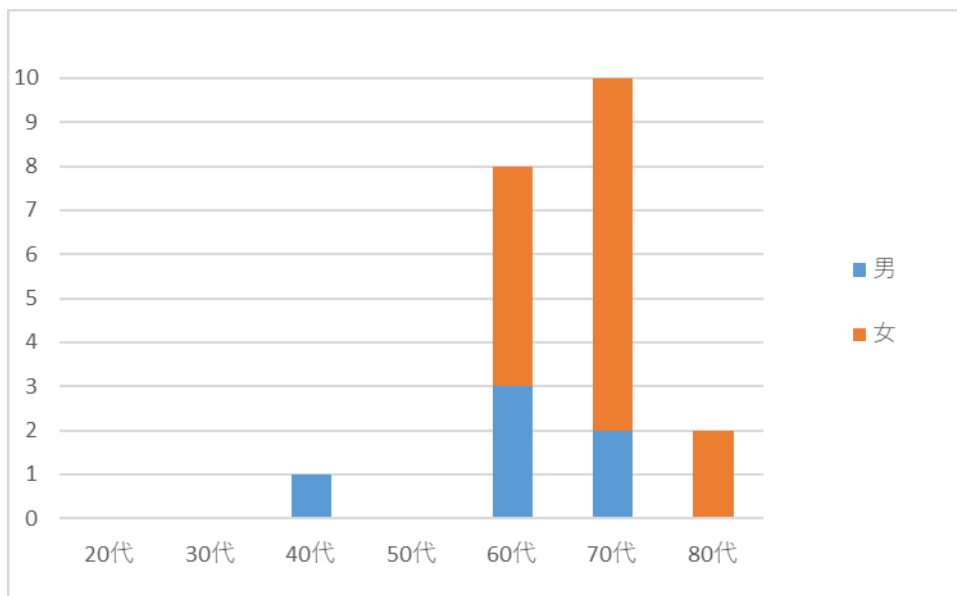
<耳鼻科>



今年度は前年度に比べ、受診者は2人減少した(令和3年度15人⇒令和4年度13人)。例年通り女性の方が多かった。これは海女漁という舩倉島特有の背景を反映しており、海女は潜水による耳の問題をかかえていることが多い。今年の健診でも耳痛を訴えるある一人の海女がいた。診察ですぐに耳せつ(限局性外耳炎)と診断され当日から治療を始めることができた。これは平時の診療所診療では決してできることではなく、この島での耳鼻科健診の必要性を感じた場面であった。

また、島民は喫煙者が多く喉頭癌のリスクが高いため、来年以降も男性女性問わず、積極的な耳鼻科受診を促していく必要がある。

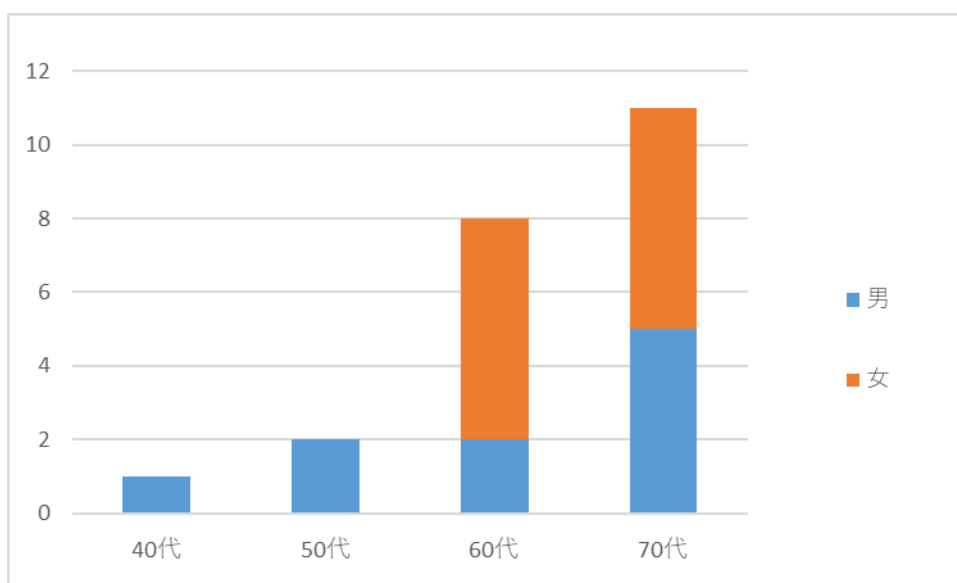
<整形外科>



整形外科は令和元年度以来3年ぶりであり、今年度の受診者は21名であった。前回は2日目のみの実施であったため、今年度は受診者が大きく増加した。肩や腰、膝などに症状を抱える島民は多く、整形外科の需要は高いといえるが、島民のほとんどがすでに輪島病院など他の医療機関で診断・治療されているのも現状である。

ただ、所長にとってこの整形外科健診は、専門医による実際の診察や普段の整形外科的プロブレムに対する助言を生でいただける貴重な機会であり、そういった意味での価値は非常に高い。また、力仕事を生業とする島民も数多く有するため、やはり整形外科は重要な診療科といえる。

<特定健診>



特定健診は6月1日～7月29日に行った。受診者数は25名であり前年度よりも増加した。普段通院されていない島民にとっては、年に1回の特定健診は1次予防の機会としては重要であるため、この機会を活用して頂きたいと思う。今後も対象者全員の受診をめざし、島民台帳を参考に対象者への積極的な呼びかけを続けて頂きたい。

6. 各科診療内容

<内科>

前年度より引き続き、内科健診は心臓健診として堀田医師に担当して頂いた。島の高齢化および高血圧・糖尿病罹患率の高さより、循環器疾患合併者が多く、専門的視点からの診療がますます重要になってきている。H21年度から実施しているが、毎年大好評であり、今年度の受診者は、前年度より1名増加となった。実人数が減少していることを考えれば、内科健診の需要は極めて高いと考えられる。西川医師には堀田医師の診療補助について頂いた。受診希望の島民にはできるだけ事前に胸部レントゲン撮影と心電図記録をしておき、また当日は身長、体重、血圧測定（左右）を施行し、日々の診療と処方内容確認のため、全例島民サマリーを参照頂いた。基礎疾患の有無に関わらず全例に心エコー検査と下肢ドップラーを施行し、精査頂いた。

今年度も事前に心電図をとりきれなかった方のための記録場所を内科診察とは別に設けた。今年度はレントゲン撮影と同じ部屋での整形外科検診を予定していたため、令和元年度と同様に心電図は保育室とした。今年は当日の心電図検査は1名のみで事前に心電図を済ませていたことが当日のスムーズな運営に繋がったと思う。

結果では、異常所見として弁膜症、心肥大、不整脈などが挙げられた。不整脈のある方の今後の薬物治療の方針や弁置換術後の方やカテーテル治療を受けた方の治療後のフォローアップなど、専門的視点から治療方針の御指導を頂いた。

また、心臓疾患のみならず、高齢者でしばしばみられる食思不振・体重減少などのプロブレムに対する方針決定および適切な医療機関への紹介もご尽力いただいた。

所長は内科医としての経験が浅い場合が多く、専門医および内科上級医としての助言を頂ける貴重な機会としてこの健診を活かしてほしい。

<耳鼻咽喉科>

耳鼻咽喉科は昭和58年度から今年度に至るまで毎年総合診療に参加して頂いている小森医師に担当して頂いた。総合診療全般においても様々な面で支えて頂いている。診療内容は喉頭ファイバーでの咽喉頭の観察、および鼻腔内、耳腔内の観察等である。舄倉島住民の女性のほとんどは海女であり、かつてはサーファーズイヤーズ（外耳道の変形）や外耳炎が多くみられたが、小森医師によりシリコン性の耳栓が導入され、以降、サーファーズイヤーズの進行は止まっているとの事で、島の海女にとって必要不可欠なものとなっている。また耳鼻科健診は喉頭癌検診もかねており、島民の喫煙量は多く、高齢化も進んでいることから、年一回の受診の機会は非常に重要と考えられる。今年度は事前の約2か月前から呼びかけをしていたが、男性受診者は3名にとどまった。そもそも島民には耳鼻科は耳と鼻という認識があるように思われ、喉頭癌検診でもあることを、今後周知させていくことで、受診率が高まると考えられる。そのためには、診療所日よりなどで耳鼻科という表記ではなく、耳鼻咽喉科という表記にするのが良いかもしれない。また、笑いにあふれた診療風景から、長年この総合診療に参加して頂いている小森医師と患者間の厚い信頼関係がみられた。事前の調査では小森医師が来られるから受診するという声もあり、小森医師が健診に来て下さることの島民にとっての重要性が専門的医療を超えたところでも伺えた。

13名の受診者で異常所見の内容は限局性外耳道炎、耳垢などであった。普段はふれる機会の少ない専門的な視点から今後の治療方針の御指導をして頂いた。また、今年度はオージオメーターによる聴力検査を必要とする受診者はいなかった。

高齢者や喫煙者はもちろんのこと、島には若い海女もおり、今後は若い世代への健診受診も促し、将来のために、耳栓の使用方法や、有症状時の対応の仕方などを聞く機会としても健診の場を活用して頂くことが、健診をより有意義なものとするために重要であると考えられた。

<整形外科>

整形外科は、高川医師に担当して頂いた。島民の高齢化が進み、肩・腰・膝などの痛みを訴える島民が非常に多く、日常診療では的確な治療およびアドバイスが行えていないと思われた為、平成 20 年から実施されている。今年は令和元年度以来、3 年ぶりに整形外科が開催された。

以前同様、レントゲン室で問診を行い、適宜レントゲン撮影を施行して一人一人の症状にあわせた生活上の注意やアドバイス、治療を行った。レントゲン撮影は市立輪島病院の古谷放射線技師にご協力頂き、スムーズで質の高いレントゲン撮影を実施する事ができた。

受診者 20 名で、大腿部腫瘍、変形性膝関節症、膝内側側副靭帯損傷、肩関節周囲炎、腰椎すべり症、ばね指、手根管症候群、などが認められた。処置や注射を実施された方は 6 名であった。その他にも対症療法（内服加療）やサポーター・マックスベルトなどの装具を提案して頂き、詳細な生活指導・リハビリ指導なども含め、専門的なアドバイスを頂いた。受診者にも非常に好評であり、来年度以降も是非整形外科診療を継続して頂きたいと切に願っている。

<特定健診>

特定健診は 6 月 1 日～7 月 29 日の期間で舳倉島夏季総合診療とは別に所長がすべて行った。実施項目は問診、身長、体重、腹囲、血圧測定、検尿、血液検査、保健指導（栄養指導）である。

受診者は男性 10 名、女性 12 名であった。昨年同様、特定健診の受診者には普段診療所や病院を定期受診する機会のない方たちもおり、特定健診の意義は大きかったと考えられる。普段健康に心配のない方でも特定健診だけは受診するという方も少なからずみられた。

今年は昨今のコロナ情勢もあり、当日の十分な医療スタッフの確保には難渋した。令和元年度は管理栄養士の方もお招きし、健診当日に栄養指導をしていたが、今年は十分なスタッフ確保ができなかったこともあり、所長による各種検査にとどまった。当日にフィードバックを得ることは受診者の健康への意識向上に直結すると考えられるため、来年以降は十分な医療スタッフを確保し、質の高い特定健診が実施されると良いだろう。

7. 反省点

1 日目終了後に反省会が行われ、様々な意見が交わされた。以下はその要点とそれに対する所長の私見およびその他の問題点である。来年度以降の実施に役立てて頂ければ幸いである。

① 受付・待合の問題点と対策

複数科受診者の流れに関して問題提起がなされたが、今年は良い改善方法が見つからなかった。令和元年度の資料では健診科目に優先順位を設定して案内したようである。耳鼻咽喉科は受診者・診察時間が短く、内科と整形外科は受診者が多く、診察時間も長い、来年以降は耳鼻科⇒内科⇒整形外科もしくは耳鼻科⇒整形外科⇒内科の順に進んでいただくのが良いのかもしれない。ぜひ令和 5 年度では改善してほしい問題点の一つである。しかしながら、待ち時間は医師島民間や島民同士のコミュニケーションの場になるといった意見もあり、長時間の待ち時間も島民にはあまり大きな問題としてとらえていないかもしれない。また、受診者自体も実人数 30 名と減少傾向は続いていることから現状の受付システムでも特別大きな混乱や運営に支障はきたさないともいえる。

② 設備上の問題と対策

特定健診を当日に実施していた年（令和元年度）までは耳鼻科のファイバー使用+胸部レントゲン+遠心分離機の使用でブレーカーが落ちる恐れがあった、とのことだが、今年はブレーカーが落ちることはなく無事終了した。来年以降、特定健診など新たに当日実施する健診が増える場合はブレーカーが飛ぶリスクを考慮して運用していく必要がある。

また、以前より使用している耳鼻科用椅子は使用可能な程度ではあるものの安定性・機能性が年々低下していることが毎年反省点として挙がっている。診療所で購入するには高価な設備であるため、県立中

央病院や輪島病院で買い替えるタイミングで古いものを舩倉島診療所に譲っていただけるように、切に願っているのが現状である。この健診に携わった方やこの報告書を読んで頂いた方はぜひご配慮いただければ幸いである。

③ 参加人数に関する問題と対策

ブース毎に述べる。内科では堀田先生が超音波などの健診、西川先生が所見の記録、竹森看護師が受診者の介助をしていただいた。公式のメンバー以外にボランティアとして輪島病院小眞頼医師、輪島病院佐藤看護師のご協力もあり、内科受診者の案内・呼び込み・血圧測定はお2人に手伝っていただいた。内科健診のスムーズな運営には計5名が適切だとメンバーからの振り返りがあった。来年以降も内科健診には5名以上のスタッフを確保してほしい。耳鼻咽喉科は小森先生が喉頭鏡や耳鏡による健診、山岸看護師が受診者介助、健診補助をしていただいた。受診者の案内や呼び込みは後述する整形外科担当の森看護師が一部協力して頂く形となった。耳鼻咽喉科にはもう1名案内や呼び込みできるスタッフがいるとより円滑にできたと思う。整形外科では高川先生がエコーや診察、森看護師が案内や呼び込み、古谷放射線技師にはレントゲン撮影をしていただいた。高川先生がエコー、問診、診察、注射の準備・接種すべて一人で行っていたためご負担は大きかったと推察される。注射の準備などにもう1名看護師などのスタッフがいると良かった。古谷放射線技師は1日目のみの日帰りだったこともあり、検診開始から船の出航ギリギリまで撮影業務をしていただいた。整形外科診療はそれぞれがさまざまな部位や症状を訴えるため、一人一人に時間がかかる上、整形外科受診希望の島民は多いため、今後整形外科健診を継続していくためには少なくとも放射線技師の2日間参加は必須事項である。受付に関しては、3つの科ごとに一人の県庁職員に担当していただいた。健診開始直後は受診者が殺到し混雑が見られたが、ピークタイムを過ぎると受付の業務は極めて少なくなった。この時点で耳鼻科や整形外科の呼び込みや案内に1名動いていただいてもよかったように思う。そうすることで森看護師が高川先生の補助につくことができるからである。

また、所長の私は初めての総合検診参加となったため、昨年までの引継ぎ資料はあるものの、実際の規模や流れに関してははっきりとは思い描くことができず、健診に協力して頂いた方々には様々なご不便をおかけしたり、準備不足を露呈したりしてしまった。次期所長候補となる研修医2年目の自治医大の後輩たちの参加を義務付けることで円滑な引継ぎができることだろう。

④ プライバシーについて

今年度も例年通りプライバシーの保護のための保護カーテンを使用して内科診察室の入り口や整形外科診察スペースに設置した。今後もプライバシーの保護には務めるべきであり、写真をみて今年度の区切り方を参考に来年度に活かして頂きたい。

8. まとめ

今年度で舩倉島総合診療は記念すべき40回目となった。これまでこの総合診療が継続されてきたのは石川県、輪島市の協力があり、そして長年診療を支えてこられた先生方やスタッフの方々、さらには準備にご協力頂いた関係各位の情熱、ご尽力によるものである。この健診に対する住民の期待と信頼は大変大きく、専門的な診療を受けられる総合診療は、舩倉島診療において根幹をなしていると言える。昨年は悪天候のため1日開催となってしまったこともあり、今年は3年ぶりに2日間開催(一昨年はコロナで中止)となり、島民と先生方が久しぶりの再会を懐かしんでいる姿や、2日目の定期船出航ギリギリまで別れを惜しむ姿をみて、単なる医師患者関係を越えた大切な何かがあるのだと実感し、来年以降も継続する価値のある事業だと思った。また、夏期舩倉島総合診療参加者の人口構成を見ると、65歳以上が73%、75歳以上の後期高齢者が約23%と高齢化社会となっており、この地域特有の職業による潜水に伴う風土病に加えて、生活習慣病、心疾患、動脈硬化性疾患の予防・早期発見が重要な位置を占めてきている。住民のニーズを明確に見極め、医療や保健など各方面と連携をとりながら、今後も総合診療を行っていく事が舩倉診療所長に課せられた命題と考える。

9. 謝辞

今年度は雲一つない快晴の下で無事に舢倉島夏期総合診療を行う事ができました。参加して頂いたスタッフの皆様、ご協力頂いた大変多くの関係機関、関係各位の方々にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。この総合診療を通して、島民が自らの健康を意識する契機となれば幸いです。所長自身も日常診療を省みるとても良い機会となりました。今後の診療に今回学んだ事を十分に生かしていく所存です。またスタッフの皆様とお会いでき、とても充実した2日間を過ごす事ができました。所長そして島民一同深く感謝を申し上げます。

今後とも舢倉島島民の健康増進のためお力添えを下さいますようお願い申し上げます。

舢倉診療所長 二又 健太

令和4年度診療スタッフ集合写真（R4.7.31 出航前の希海（のぞみ）前にて）

